

ジョン・ゲイ

5 バラッド

スーザンの歌 『乞食オペラ』 2幕 8場より

I

海が荒れ
突風が吹きつける中
乙女がひとり
岩にもたれて嘆いていた
うねる大波のあなたへ 5
切ない視線を投げていた
乙女の頭には柳の冠
柳葉は川面に揺れるを常とする

II

長い長い 12 カ月と 9 日が
もう過ぎようとしていた 10
向こう見ずなあなた なぜ
なぜ 海を信じて出かけたの
静まれ 静まれ 残酷な海
あのひとを静かに休ませて
ああ 海がどんなに荒れようとも 15
私の胸の荒波にかなうはずはない

III

商人も積荷を奪われたなら
絶望して 嵐を見つめることでしょう
でも どんな財宝を失おうとも
あのひとを亡くした私の悲しみにかなうはずはない 20
どこかの浜辺に打ち上げられて
そこが金やダイヤに溢れていたなら
もっと金持ちの女も見つかるでしょう
でも こんなにあなたを愛する私にかなうはずはない

IV

自然界には無駄など無いと 25
いったい誰が言ったのかしら
あの時 海の下に

大きな岩が潜んでいたとは
深いところに潜んだ岩など
海をゆくあのひとを難破させ 30
私を涙にくれさせた岩など
誰の目にも 見つけられるはずはない

V

悲しみにうちひしがれ
恋人を想って乙女は泣いた
突風はため息に応え 35
大波は涙に応えた
すると 白い波にうつ伏せて
恋人の遺体が流れ着いた
それから ユリの花がしぼむように
乙女はうなだれ 息絶えた 40

(中島久代訳)